

令和の

「  
新常識  
基礎知識 &  
いまさら聞けない  
HIV・エイズ

## いまさら聞けない!? HIVとエイズの違い

### HIV

エイチアイブイ

HIV(Human Immunodeficiency Virus・ヒト免疫不全ウイルス)は、人の免疫細胞に感染するウイルスです。

HIVは感染している人の血液、精液、膣分泌液、母乳などに多く分泌され、これらの体液が粘膜や傷口に接触すると、まれに感染する場合があります。日本ではセックスによる感染がほとんどです。



### AIDS

エイズ

HIVに感染すると免疫細胞が体の中から徐々に減っていき、通常ならば感染しない病原体に感染しやすくなり、様々な病気を発症します。HIVが原因でこれらの病気になった状態がAIDS(Acquired Immuno-Deficiency Syndrome・後天性免疫不全症候群)です。

HIV感染から約3ヶ月の間に、発熱などインフルエンザに似た症状が起こる場合があります。その後は無症状の期間が数ヶ月～十年以上(個人差があります)続きますが、治療をしないとAIDSを発症します。

AIDSの症状には肺炎や腫瘍、脳症、意識障害など様々なものがありますが、治療をせずに放置してしまうと、ほぼ例外なく死に至ります。

## 正しく・早く知ることが 安心につながります

### 感染経路

HIVは皮膚での接触、蚊やペット、空気を媒介して感染することはありません。日常生活や職場で一緒に過ごすことはもちろん、接客業や飲食業、医療や介護といった他者に触れる業種においても、感染のリスクはありません。

また、適切な治療や処置をすることで出産に伴う母子感染も防ぐことができます。



### 感染予防

セックスの際にコンドームを正しく使用することが、もっとも効果的です。

### 検査

症状や出来事だけでは自己判断できません。HIV感染の有無を確認するためには検査を受ける必要があります。

HIVの検査は、保健所(無料・匿名)または医療機関(有料)で受けることができます。また、これらの事前チェックとして市販の検査キットを個人的に購入することもできます。

### 治療

抗HIV薬を毎日服薬してウイルスの増殖を抑えることで、非感染者と同じように生活や仕事をすることができます。健康に寿命をまっとうすることができます。

なお、現在のところHIVを体内から完全に除去する方法はありません。

### 医療費

身体障害の認定を受けることで、医療費の助成を受けることができます。所得に応じて自己負担額の上限が決められているため、経済的な理由で治療が受けられないという心配はありません。

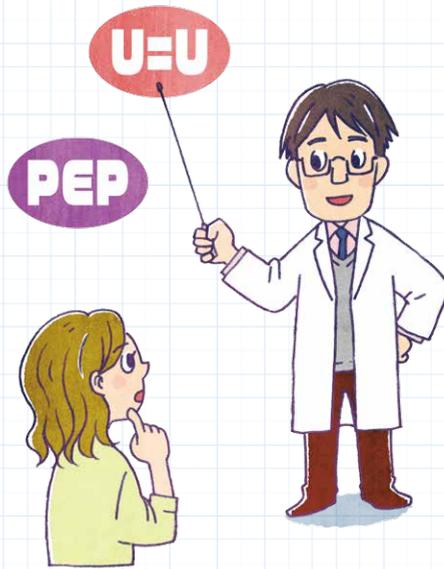
# HIV/AIDSの **新常識**

## 治療をすればうつらない!

U=U

Undetectable=Untransmittable

HIVに感染しても、治療によってウイルスを抑えることで、セックスの相手に感染させるリスクはなくなります。



## コンドーム以外の予防方法

PEP

Post-exposure prophiraxis  
(曝露後予防内服)

感染が起り得る出来事(セックスや針刺し事故など)があった後、抗HIV薬を服用することで感染を防ぐことができます。ただし、日本では医療保険の適用外のため全額を自己負担する必要があります。

PrEP

Pre-exposure prophiraxis  
(曝露前予防内服)

セックスの前に抗HIV薬を服用することで、HIVの感染を防ぐことができます。すでにHIVに感染している場合にはウイルスが耐性を獲得してしまう可能性があること、また薬には副作用の可能性もあることから、PrEPを行う際には定期的な通院が必要です。

※いずれの予防方法も、他の性感染症は防ぐことはできません。

※日本国内では、PEPおよびPrEPを目的とした抗HIV薬の医療費には医療保険は適用されません。

# ここがヘンだよ!? 日本のエイズ対策

## 治療をすればうつらない!のに...

- HIV感染が判明しても、血液中の免疫やウイルスの量が一定程度に悪化した状態にならないと、身体障害の認定を受けられません。障害認定にもとづく医療費助成を受けることができないと、治療を継続することは経済的に困難です。
- 早く治療を開始した場合に比べて、治療開始を遅らせることは予後の悪化にもつながら、他者への感染も懸念されます。



## 医療従事者の理解が進まない

### 啓発や検査促進の遅れ

- HIVの感染拡大を抑えるためには、早期発見・早期治療が必要です。日本を含む先進国やアジア諸国では、ゲイ男性の間で特にHIVの感染が広がっていますが、日本ではゲイ男性向けの予防啓発や検査促進に対する公的予算が減少しつつあり、せっかく治療が進んでいるにも関わらず、むしろ若年層では感染が広がっています。
- 日本ではHIVの検査を受けるためには平日の昼に仕事を休んで保健所に行ったり、医療機関で高い検査代を払う必要があります。多くの国ではすでに簡易検査キットが普及しており、どこかの施設に足を運ばなくても、プライバシーを気にせずより簡単に感染の有無を調べる方法が広がっていますが、日本の行政によるエイズ対策では検査キットは活用されていません。

- HIV陽性者も非感染者と同じく、長く生きていけば様々な病気になることがあります。しかし、地域の病院・クリニックや歯科でHIV陽性であることを理由に診療を拒否された経験があるHIV陽性者は少なくありません。HIVの感染経路は限定的であり、医療機関が受診を断る合理的な理由は何もありません。
- すでにエイズを発症している患者を診察しても、HIVによる症状であることを診断できず、HIV感染症の診断が遅れてしまう事例も多く起きています。
- HIV感染症は世界三大感染症のひとつですが、日本の医療従事者にとってはマイナーな疾患です。これから日本で生活する外国人もますます増えていく中、医療従事者のHIV・エイズに関する基本的な理解を推進していく必要があります。

# JaNP+ (特定非営利活動法人日本HIV陽性者ネットワーク・ジャンププラス)は、 HIV陽性の当事者による 全国ネットワークです。

## [活動目的]

HIV陽性者が秘密を抱えることもなく、  
社会的な不利益を受けることもなく、  
HIV陽性者として、  
自立したあたりまえの生活ができる社会を目指します。

## [3つのミッション]

1

### 情報提供活動

医療、福祉、保健、政治などの幅広い分野から、HIV陽性者の生活に関する情報を、HIV陽性者独自の視点で選び、伝えています。

2

### アドボカシー活動

社会に根強く残るHIV/エイズへの偏見や差別をなくし、HIV陽性者であることから生じるさまざまな不利益をなくすよう、社会に働きかけていきます。

3

### ネットワーク事業

国内外のHIV陽性者グループとの交流や、意見交換を行っています。多くのグループが連携、協力しあうことで、より大きな声へと変えていくことが可能となります。

### 交流会

HIV陽性者交流会  
ピアグループ  
運営スタッフの育成  
全国のピアグループの  
相互連携・情報共有

### 行政への 参画・提言

行政の委員会・  
協議会等への参加  
政府・行政等  
への要望

### 情報発信

情報誌の  
制作・発行

## [主な活動内容]

### 記事配信

メディア  
取材対応

### 調査・研究

アンケート調査の  
企画・実施  
各種研究への  
参加・協力

### 講演活動

HIV陽性者  
スピーカー派遣  
スピーカーの  
育成



## JaNP+の 活動へのご支援

社会におけるHIV/AIDSに対する偏見がある中で、HIV陽性者が自らの立場を明らかにした上で、自分たちの声をあげて社会に届ける活動は、決して容易ではありません。ぜひ多くの方のご支援をお願い致します。ご寄付は銀行振込・クレジットカードで承っております。詳しくはJaNP+のウェブサイトをご確認ください。

小さなちからを大きくつなぐ

**Ja****NP****+**



Japanese Network of People Living with HIV/AIDS

特定非営利活動法人 日本HIV陽性者ネットワーク・ジャンププラス